

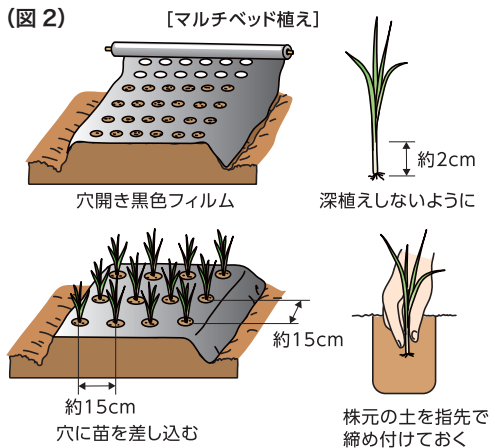
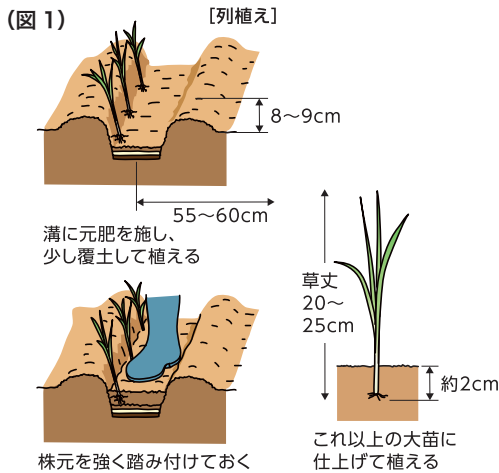
## チャレンジ！野菜づくり

### タマネギ苗の上手な植え付け



9月に種まきしたタマネギ苗は、10月下旬から11月が植え付けの適期です。5〜6mm径に太り、葉がしっかりと、根がたくさんついた苗を選びましょう。最近では3号ポリポットにじかまきし、十数本立てにしたポット苗も出回り始めました。鉢土を外し、根がしっかりと付いた状態で植え付けられるので、お買い得です。

タマネギは、真冬に入るまでに十分地中に根を張らせ、春には勢い良く育つようにすることが大切です。そのためには基肥を適切に施し、特にリン酸成分（溶成リン肥



や過リン酸石灰）を欠かさずに。

根の性質が野菜の中では特異的で、通気性の良さを好まず、乾燥を嫌うので、基肥に堆肥は与えず、植え付けた後は根元を強く鎮圧しておくことが大切です。油かすや魚かすなどにはタネバエが卵を産み付け、幼虫が根元に食い込む被害が出るので、与えないでください。

植え付け方法には、8〜9cmほどの深さの植え溝を55〜60cm間隔で作り、化成肥料と過リン酸石灰などを施して土を掛け、並べて植える列植え方式（図1）と、肥料を畑全面に20cmほど耕し込み、幅90

cmほどのベッドを作り、植え穴の間隔が15×15cmぐらいの黒色ポリフィルムを敷き、その穴に苗を押し植えるマルチベッド植えがあります（図2）。

列植えは一定の深さに溝を付け、苗を同じ深さにそろえて植えるので、植え付け作業が速く苗の姿勢が良く、株元の踏み付け鎮圧がしやすいです。また生育後期に、列間に後作（インゲンマメ、ラッカセイ、シヨウガなど）を作付けすることにより、畑の高度利用ができます。

一方のマルチベッド植えは、地温を高め、乾燥を防ぎ、雑草を抑止し、肥料の滅亡を少なくする効果があります。ただし植え付け、株元の鎮圧には手間がかかります。

植え付け作業のポイントは、苗床から苗を抜き取る時、乾いたら灌水し、苗の大きさをそろえ、できるだけ根を付けて抜き取り、植えるときは根を下方に向けて深く入るよう植えることです。ベッド植えでは木製の穴開け道具を作り、きちんと植え穴を作り、根を下方に向け深さをそろえて植え、株元を指先で押さえ締め付けておきます。植え付けの深さは根の上に土が2cmほど掛かる程度に。緑葉の部分まで土が掛かるのは深過ぎで、後の育ちが良くありません。

## 不要農薬・空容器の処理申込受付中（11月17日まで）

不要になった農薬や農薬の空容器（家庭用使用除く）は「産業廃棄物」となるため、廃棄物処理業者への委託などによる適切な処理が必要です。

○回収日：平成30年1月13日

★対象となる不要農薬は…？

○一般農薬

（一部の成分を除く農薬全般）

○不明農薬

（破袋・開封済み・ラベルなし）

○水銀化合物

（例：ブラスム等）

○その他（特殊）農薬

（例：シヨウロン・MO等）

★対象となる空容器は…？

○プラスチック類

（例：パッチリフロアブル等の水稲用フロアブル剤）

○紙類

（例：ザイベックスSM等の水稲用粒剤）

○ビン類

（ガラス類）

○金属類

（例：ドロクロール等の空缶）

※隔年で不要農薬・農薬空容器の回収を実施しています。

廃棄物処理業者への委託となるため、有料となりますが、不要農薬・農薬空容器を適正に処理しましょう！

お申し込みについては、最寄りの支店・営農センターまでお問い合わせください